

パナマ運河拡張で進む
市内交通インフラ整備



夢の街マイアミ
不動産投資事情

コアラ社長の

ある。同港は現在でも巨大な貨物用のターミナルを抱えており、旅客用クルーズにおいても年間440万人と世界一の旅客数を送り出し、世界で1番大きなターミナルをも有する。これを2倍の大きさに拡張するというのである。

現在の港の水深は42フィート。これを50フィートまで浚渫し、より大型なコンテナ船の通航を可能にする。そして大胆にも、貨物専用鉄道でマイアミ国際空港とつないでしまうという計画だ。マイアミ港と空港の間には摩天楼が広がっているため、トンネルを掘り陸路で約15分という短時間で運行可能だ。さらに、同港から大型トラック専用のトンネルも建設し高速道路へ直結させ、貨物郵送時間の短縮と市内道路の渋滞緩和を狙う。

第65号で紹介したパナマ運河拡張工事についてもう少し触れてみたい。なぜなら、今後のマイアミの発展、さらに不動産価格の上昇に大きく影響するビッグニュースであるからである。

パナマ運河の拡張工事は15年の夏に竣工を予定している。この工事が完了すると、これまでに運航できなかった「ポストパナマックス」級と呼ばれる超大型貨物船も通過できるようになるのだ。現在、アメリカ東海岸を目指すアジア発の貨物船の43%がパナマ湾を通航しているが、拡張工事完了後にはこの割合が49%に達する見込みだ。パナマ運河を通過できることで輸送費を最大で3分の1も削減できるとい試算がなされている。

このパナマ運河拡張工事に合わせて、東海岸の港町の中で地理的要因、空港との連携の利便性から「ポート・オブ・マイアミ」、

経済効果は500億ドル、シェールガスなど日本へ輸出も

マイアミ空港周辺の高速度道路網は現在でも、慢性的な渋滞が起きており、ジャンクションの建設が急ピッチで進められている。マイアミ国際空港はこの25年間休む暇なく拡張工事が進められ、ターミナルフロアには未利用のエスカレーターが上部へつながっており、全く利用されていないフロアが存在する。更なる旅客数の増加に対応できるはずである。

さらに、マイアミ国際空港から車で1時間足らず北上するだけでフォートローダーデール空港という国際空港があり、こちらも現在ターミナルの増設工事を行っている。

マイアミ港の拡張工事による経済効果は500億ドルを超えると試算されている。日本には無関係と思われがちだが、実は「オオアリ」なのである。アジアに向けたシェールガス、シエールオイルの運搬に利用される見込みが高いからである。実は我われ日本人の生活にも直結する重大なニュースなのである。今後の動向にも注目したい。



再開発が行われるマイアミ港

(小原隆浩) 隔週掲載